

教育・研究業績

所属 スポーツ科学部	職名 講師	氏名 峯田晋史郎	大学院における研究 指導担当資格の有無	無	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
予習資料・課題による授業外学習時間の確保及び前提知識の獲得による授業の円滑化	2022年～現在	リコンディショニングやトレーニング、外傷傷害の授業では、解剖学など基礎的な知識を有することが前提となる。この前提知識の有無が授業についていけなくなる大きな要因である。そこで授業内容に必要な前提知識に絞った予習資料を公開し、授業前課題として提出を求めることで、授業についていけなくなる学生を減らすよう工夫を行っている。			
アクティブ・ラーニング実践のためにマインドマップの活用	2022年～現在	実際に学生自身がリコンディショニングメニューを組むような際には、初めに課題として全員がマインドマップを作成し、授業前半に全員がマインドマップを発表、集合知を見える化し、その後マインドマップをもとにメニューの作成を実施することで、難易度の調整とメニューの質の向上を実現した。			
学生による授業評価の実施	2022年～現在	学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めた。			
2 作成した教科書、教材、参考書					
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3コンディショニング	2022年11月	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成テキスト第3巻の、バランストレーニングのページの執筆を担当した。 ●担当項：pp. 132-145			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書 (単著)					
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月
著書 (共著・分担執筆)					
題目/書名	著者/編者	初(始)頁～終頁	発行所	発行地	発行年月
ケガをしないカラダづくりイラストで見るスポーツ医学とトレーニング	広瀬 統一 (著, 編集), 泉 重樹 (著, 編集), 福田 崇 (著, 編集), 稲見 崇孝 (著, 編集)	pp. 130-134	東洋館出版	東京	2023年11月
スポーツと運動のバイオメカニクス (翻訳)	柳谷登志雄 (翻訳), 川本竜史 (翻訳), 長野明紀 (翻訳), 谷川 聡 (翻訳), 広瀬統一 (翻訳)	pp. 398-420	メディカル・サイエンス・インターナショナル	東京	2023年3月
コンカレントトレーニング 最高のパフォーマンスを引き出す「トレーニング順序」の最適解(翻訳)	モリーズ・シューマン (著), ベント・ロンネスタッド (著), 稲見 崇孝 (監訳), ◎峯田晋史郎 (訳), 山岸 卓樹 (訳), 山口 翔大 (訳)	pp. 333~536	東洋館出版	東京	2021年2月
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)					
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
Reliability of ultrasonographic measurement of muscle and tendon morphology using the overlapping images method.	Yoshimura A., Honda M, ◎Mineta S, Murata K, Hirose N	The Journal of Physical Fitness	14(4)	95-100	2025
Epidemiology of lateral ankle sprain focusing on indirect contact mechanism in male and female soccer players: An 18.5-month cohort study.	◎Mineta S., Koyama T., Yamaguchi S., Inagaki H., Sekine Y	Injury	55 (8)	Epub	2024
Changes of Instrumental Activities of Daily Living, Body Composition, and Physical Functions of Older Women during the COVID-19 Pandemic: A Follow-Up Study	Kimura N, Maeshima E, Ikeshima A, Tomokane S, ◎Mineta S, Mitsui M, Sasakabe W	International Journal of Gerontology	17(4)	258-262	2023
Less impact absorption at the ankle joint is related to the single-leg landing stability deficit in patients with chronic ankle instability	◎Mineta S, Fukano M, Hirose N	Journal of Biomechanics	149	Epub	2023

Neuromuscular responses of the hamstring and lumbopelvic muscles during unanticipated trunk perturbations	Higashihara A, Jurdan M, Ono T, Nagano Y, Sasaki S, ©Mineta S, Hirose N	Journal of Sports Sciences	40(4)	1-11	2021
Greater knee varus angle and pelvic internal rotation after landing are predictive factors of a non-contact lateral ankle sprain	©Mineta S, Inami T, Hoshiba T, Higashihara A, Kumai T, Torii S, Hirose N	Physical Therapy in Sport	50	59-64	2021
Influence of Altered Knee Angle and Muscular Contraction Type on Electromyographic Activity of Hamstring Muscles during 45° Hip Extension Exercise	Taspol K, ©Mineta S, Hirose N	Journal of Sports Science and	19(4)	630-636	2021

総説					
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月

その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月

学会発表 (「国際学会」、「国内学会 (一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等)」、「研究会」等区分を記入)

区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
国内(一般演題)	令和7年6月	第6回 足の構造と機能研究会 学術集会	足部外側を浮かせたカーフレイズ介入が足関節の不安定感及び姿勢安定性を改善させる：単盲検ランダム化比較試験	東京	◎峯田晋史郎, 實戸 崇史, 江波戸智希
国内(一般演題)	令和6年6月	第5回 足の構造と機能研究会	慢性足関節不安定症を有する者の外乱に対するステップング動作の動作特徴	北海道	峯田晋史郎
国内(シンポ)	令和4年11月	第33回 日本臨床スポーツ医学会学術集会	PAASS frameworkに基づく足関節外側靭帯損傷後の復帰基準	北海道	峯田晋史郎
国内(一般演題)	令和3年9月	第76回 日本体力医学会大会	慣性センサを用いた在宅で計測可能な下肢伸張性制御能力の定量化の試み	オンライン	◎峯田 晋史郎, 笹壁和佳奈, 三井 みのり, 下河内 洋平

科学研究費等の取得状況

科学研究費/その他の助成金/外部資金

区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額 (期間内の総額)
科学研究費	基盤研究C	足関節弛緩性を伴う慢性足関節不安定症の症状改善トレーニングの確立	代表	2026年4月 - 2031年3月	4,550千円
科学研究費	若手研究	身体接触及び認知負荷を伴う動作中の内がえし捻挫受傷予防トレーニングの開発	代表	2021年4月 - 2026年3月	4,680千円
科学研究費	特別研究員奨励費 (DC2)	足関節内反捻挫の危険動作とその要因の検討	代表	2018年4月 - 2020年3月	1,900千円

特許

特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国
下肢制御能力測定装置、下肢制御能力測定システム、下肢制御能力測定プログラム、及び下肢制御能力測定方法	下河内洋平、峯田晋史郎	2022年06月16日 JP2022/038691	JP.W0202301767 5.A1	取得した場合 ⇒		
下肢制御能力測定装置、下肢制御能力測定システム、下肢制御能力測定プログラム、下肢制御能力測定プログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体、及び下肢制御能力測定方法	下河内洋平、峯田晋史郎	2022年10月18日 JP2022/024169	JP.W0202307994 2.A1			

Ⅲ 加入学会および社会における活動

期 間	内 容
加入学会	
2015年6月～現在	日本アスレティックトレーニング学会 学会員
2016年10月～現在	日本臨床スポーツ医学回 学会員
2018年2月～現在	European College of Sport Science 学会員
2026年3月～現在	日本アスレティックトレーニング学会 学術委員会
社会的活動	

IV 管理活動				
期 間		内 容		
委員会活動				
2026年4月～現在		国際交流センター委員会		
特別プロジェクト活動				
V クラブ活動の指導業績				
1. 指導クラブ名	部	2. 役職	例：2020～〇〇 2024～〇〇	3. 部員数 人
4. 現場指導の頻度	選択 ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日
6. クラブの競技力向上への取り組み	選択 ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	選択 ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	選択 ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				
開催期間	大会名	成 績	場 所	
VI 賞罰 (職務に関する賞罰)				
年 月	受賞等機関名	内 容		備 考
2019年7月	24th Annual Congress of the ECSS,	Oral presentation Young investigator award finalist		
2015年12月	第4回日本トレーニング指導学会大会	若手科学的研究奨励賞 受賞		